青春スクロール 私の母校

静岡学園中学・高校②（静岡市葵区）

「文武分業」勉強で勝負の６年間

「静岡学園で学んだ数学や英語は、基礎力となって役立っています」と瀧村晴人さん

50年前に高校から始まった静岡学園は、1978年に中学校も開設した。

財務省の瀧村晴人（たきむらはると）さん（36、98年卒）は「高校受験なしで、のびのびしたい」と静岡学園で6年間を過ごした。

学校は、勉強に力を入れる生徒とスポーツに力を入れる生徒に分かれる「文武分業」。96年1月にサッカー部が全国大会で優勝するなど、活躍する選手たちを見ると、「自分はこっちで勝負しよう」と勉強に力が入った。すぐには答えが出ない数学の問題を考え続けることが好きで、「これで持久力がつきました」。

父が製薬会社勤務、母が薬剤師という影響もあり、東京大学薬学部に進学。ブドウ球菌の研究など4年間の勉強を終えた後、数学好きが高じて同大理学部数学科に編入した。証券会社でインターンをしながら経済学を独学し、財務省に入った。

「省内でも珍しい経歴。でも、人と違うことは強みです」という。

入省後は、米コロンビア大学に留学したり、国際通貨基金（IMF）のエコノミストとして働いたりと、海外で活躍する機会も多かった。現在は財務官室課長補佐として、5月の先進7カ国首脳会議（伊勢志摩サミット）にあわせて開かれる財務相・中央銀行総裁会議（仙台市）の準備も担当する。「会議期間中の食事は何を出そうかなど、国際金融とは全く関係のないことですが、それも楽しめてます」

瀧村さんと同学年で、中高一貫で学んだ飯塚智（いいづかさとし）さん（36、98年卒）は、共同通信の英文記者として日本のニュースを海外向けに英語で書き、日々配信している。

「野球部応援で、応援部のお兄さんたちにしごかれた記憶があります」と飯塚智さん

自宅から徒歩10分程度と近かった静岡学園は、「勉強が厳しい学校」と聞いていた通りだった。夏休みでも丸々休めるのは10日間ほどで、その他は半日の授業があった。

英語は在校中に英検準1級をとるなど得意だった。「外国のことを勉強したい」と東京外国語大学に進学。インドネシア語を専攻した。「文字がアルファベットで、声調（せいちょう）（音の上げ下げ）がなくて簡単そうかなと……深い理由なしに決めました」

学生時代は居酒屋でのアルバイトや留学生の世話などをして、「勉強はあまりしなかった。中高の反動かな」。大学4年のときシンガポール国立大学に留学し、インドネシアの首都ジャカルタで邦人向けの新聞を発行する会社でのインターンもした。そんな経験もあり、マスコミを志望した。

英文記者になって3年目。それまでは広島や福岡で普通の記者をしていたので、「英語の勉強もまだまだ必要」という。また、海外向けの記事なので、日本では当たり前と思われているバックグラウンドをどこまで入れるか、「日々悩みながら書いています」。

（編集委員・根本理香）